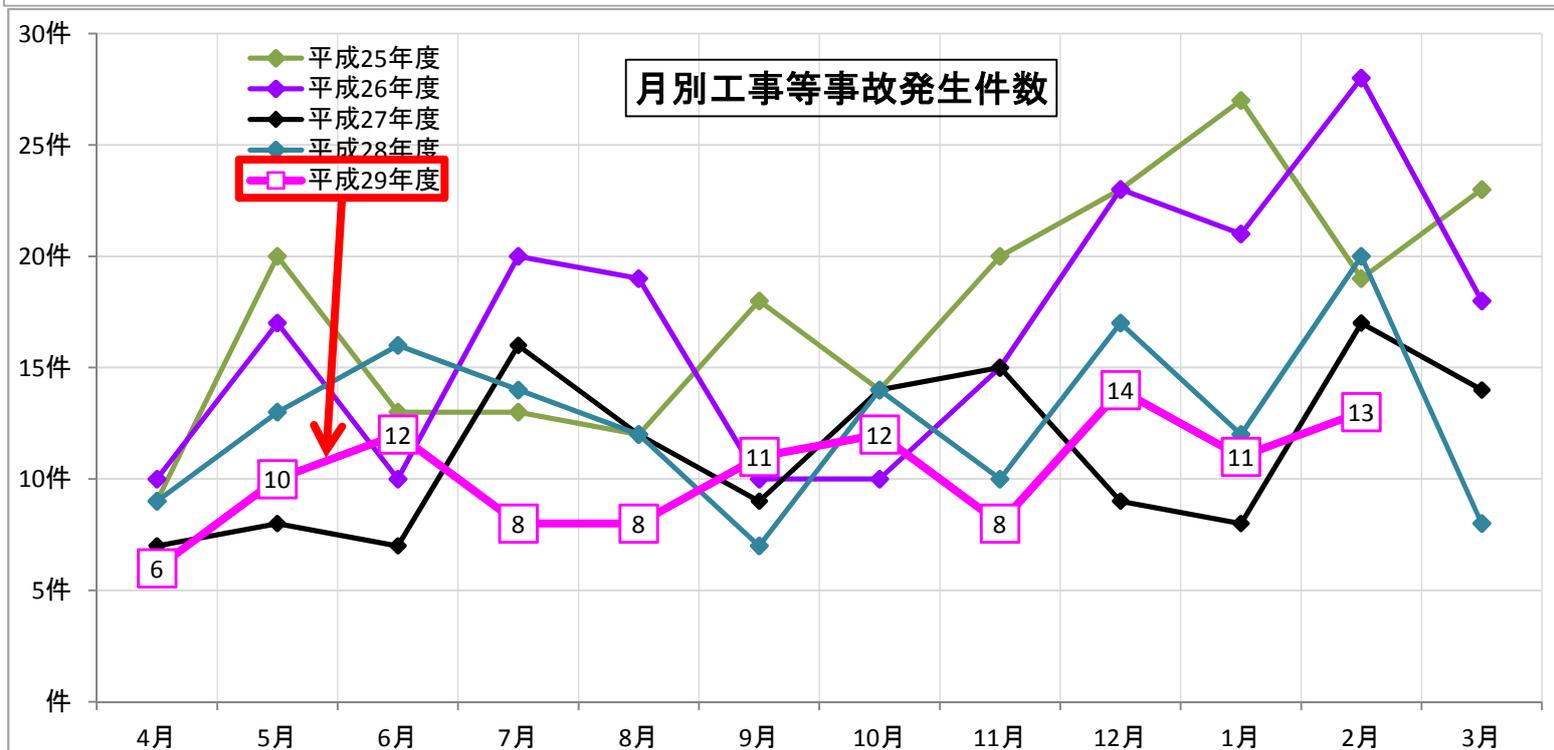
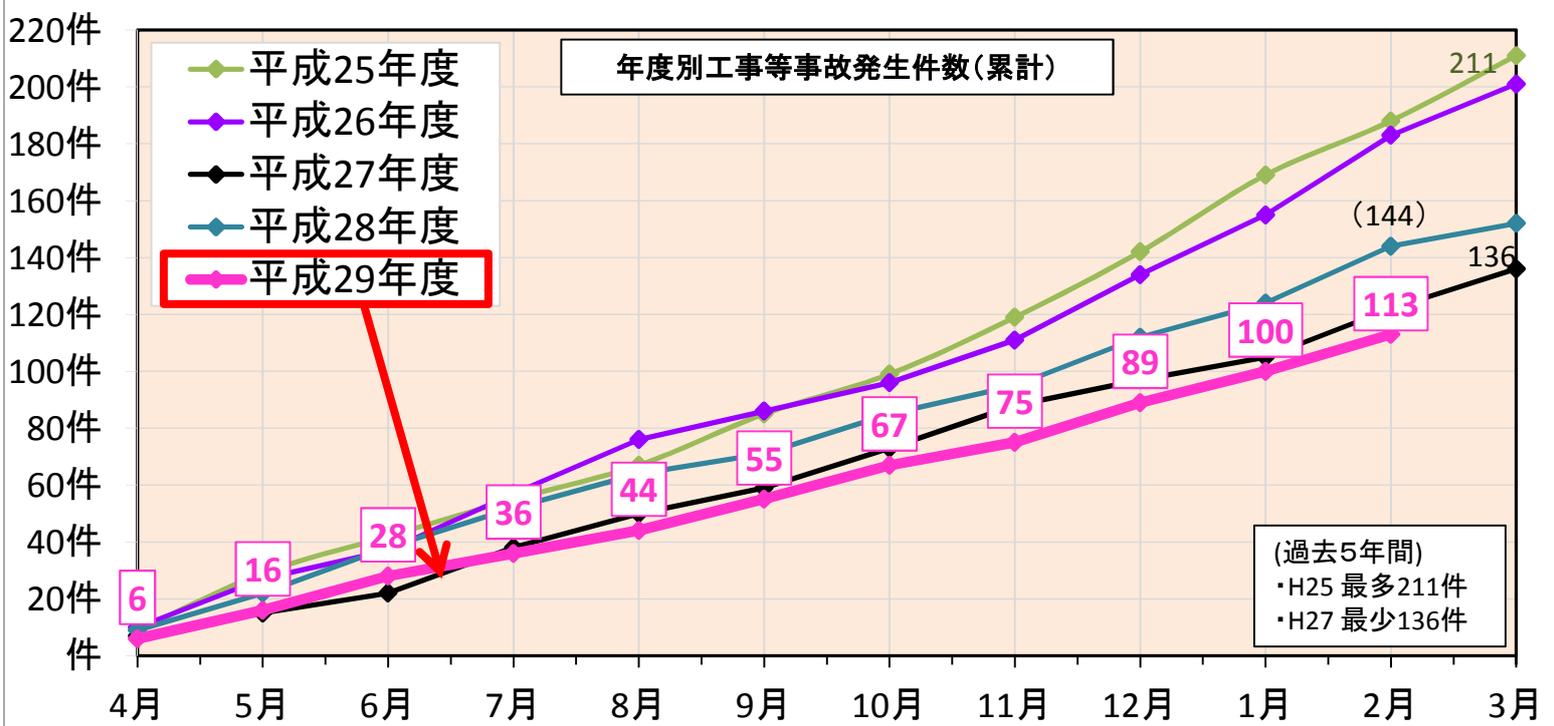


平成29年度直轄工事等事故発生状況(速報値)

(平成29年度は暫定値 H30.2.28時点)



暫定値ではありますが、平成29年度における事故件数は113件となり、昨年度の144件(2月末時点)に比べて大幅に減少しています。

年度の開始直後は、ここ数年間の平均レベルで推移していましたが、夏季の発生件数が少なかったこともあり、平成27年の年間136件とよりも更に低い推移を示しています。

例年2月には、多くの事故が発生する傾向がありましたが、今年度はその傾向は見られませんでした。3月も作業員1人1人の安全に対する意識を高め、年間最小件数となるように、職場全体が一丸となって工事事故防止に取り組ましましょう。

今一度、現場及び周辺の点検と安全確認を確実に行いましょう

信号機管路の切断事故にご注意！

信号機管路の確認不足・認識不足による切断事故が複数発生しています。信号機管路の切断は交通事故に繋がり、人命に関わる場合もあります。基本的に占用台帳は無いので、占用協議(回答)書等を確認し、立会するなど十分な安全対策を実施して事故を防止しましょう。

【信号機管路の切断事故事例】

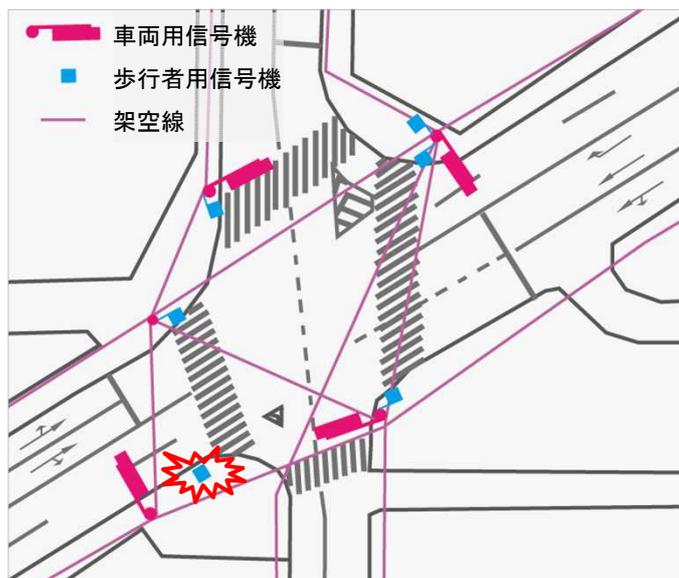
(あんぜん平成30年2月号 第282号の再掲)

【事故概要】

2018年1月10日事故発生。車道の拡幅に伴う交差点右折レーンの設置の工事のため、最終的に車道となる現況歩道部の埋設管(NTT)の確認を行った。土被り120cmにある埋設管を調査するため、深さ90cmまで掘削し、がれき等をバックホウで除去した際、土被り70cmに埋設されていた引き込み管路の歩道用信号への配管・配線(1本)を切断し、復旧するまでの約30分間、車道信号が点滅、歩行者信号が消灯した。

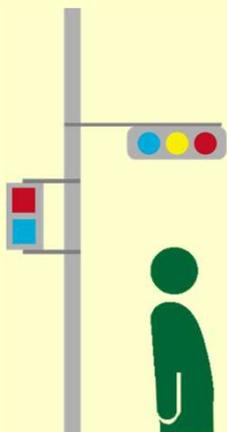
【原因】

現地に信号機があり、架空線で繋がっていない機器があるにも関わらず、配線に気を配らずに埋設管を切断したものであり、占用者(公安委員会)との協議が不足していた。

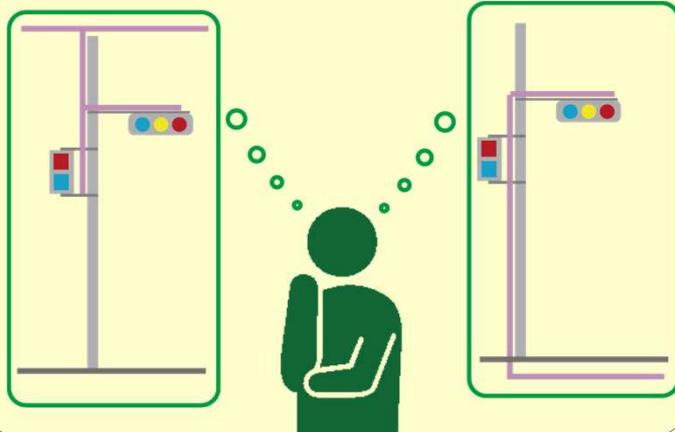


信号機については、基本的に占用台帳は無いので、**占用協議(回答)書等を確認し、立会しましょう。**

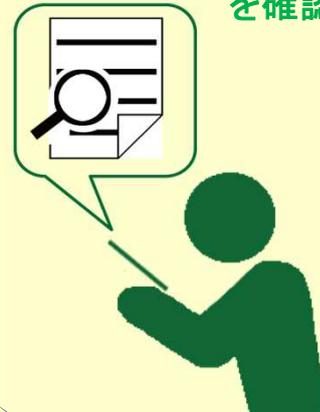
①現地踏査



②配線・管路の状況を確認 (架空・地下)



③占用協議(回答)書を確認



★地下埋設物事故を防ぐには

- ①事前調査の徹底 現地調査(機器へ繋がる架空線、ハンドホール等)及び書面(台帳、占用許可書等)を確認
- ②試掘の検討(試掘を行い現場に位置と深さを明示)
- ③施工計画・作業方法の検討
- ④全ての作業員への地下埋設物の周知徹底 を行いましょう。

★台帳に未記載の地下埋設物を確認した場合は資料を作成し、台帳に反映させましょう。(発注者)



建設業年度末労働災害防止強調月間

実施期間：平成30年3月1日～3月31日

主催：建設業労働災害防止協会

建設業年度末労働災害防止強調月間は、厚生労働省ならびに国土交通省の後援のもと、工事の輻輳化や季節的な災害により増加する年度末の労働災害防止のために、上記の期間に実施致します。

実施にあたっては、「建設業労働災害防止規程」および「平成29年度 建設業労働災害防止対策実施事項」等を活用し、積極的に労働災害防止活動を実施してください。

詳しくは https://www.kensaibou.or.jp/public_relations/various_campaign/04end_fiscal_year_safety_week.html

